

# 第三章 被害

1月26日の噴火では高千穂河原に約6cm軽石が積もり、高千穂河原へ向かう県道とえびの高原へ向かう市道と県道は通行止めになりました。そのほか、小規模な火砕流も発生し、火口周辺の森林が焼失。入山規制がかかり火口から半径2km以内は立ち入り禁止。27日以降も地鳴りや窓ガラスを震わす空振は、霧島・牧園地区の住民を不安にさせ、31日には立ち入り禁止区域も3kmになりました。

2月1日、午前7時54分、4回目となる爆発的噴火による空振は、甚大な被害をもたらしました。霧島・牧園地区の145の公共施設、宿泊施設、民家などのガラス552枚、サッシの曲がりなどの91か所が破損。火口から南西3.2kmには直径約70cmの火山弾が飛び、木をなぎ倒し、山火事を起こしました。落下した場所にできた大穴は直径8m、深さ2m。この爆発的噴火で立ち入り禁止区域が4kmに拡大。

大浪池麓の湧水を利用している高千穂河原では、途中の配管が噴石によって破損し給水できなくなりました。一方、同じく近くに水源を持ち霧島地区の旅館、ホテルなどに温泉を供給している市の温泉施設は被害を免れました。2012年8月、鹿児島地方気象台や東京大学などが観測機器の調査に訪れ、火口から約800mの場所に直径6~7mの巨大な火山弾を発見。改めて火山のエネルギーの大きさに驚かされます。

## 地鳴り、空振、噴火 大きな不安と被害



高千穂河原へ向かう県道が通行止め(2011.1.27/新湯入口)



新燃岳の降灰で霧島市で初めてロードスイーパーが使用された(2011.9.1/牧園町栗川)



空振で外れた扉(2011.2.1/霧島公民館)



火山性ガスで枯れた木々と噴石  
[2012.8.10/新燃岳火口から西北西約700m/鹿児島地方気象台提供]



キノコと茶葉に降ったパウダー状の灰。キノコは青く変色した。  
[2011.2.18/牧園・霧島地区]

2月1日の噴火に伴う空振被害状況

施設	施設数	ガラス	サッシ曲がりなど
教育施設	5	6	19
公共施設	13	54	32
福祉施設	11	39	9
店舗等	26	133	9
宿泊施設	19	193	22
民家	71	127	0
合計	145	552	91



400~500トンの巨大火山弾  
[2012.8.10/新燃岳西北西約800m/鹿児島地方気象台提供]



火山弾の直撃を受けてなぎ倒された直径約40cmの木  
[2011.2.1/新燃岳から南西3.2km付近]



降り積もった軽石が水無川を埋めた  
[2012.6.26/高千穂河原]



噴石によってできた幅8m、深さ2mの大穴(2011.2.1/新湯付近)



牧園町高千穂  
村山祥子さん(48)  
まりんさん(10)

### 爆風で受けた心の傷

2月1日、いつものように娘が「行ってきます」と、玄関のドアを開けた瞬間、ものすごい音がしました。「死ぬう」と何度も叫ぶ娘の後ろの雪見障子の窓ガラスは粉々に飛び散り、障子が台所まで飛んでいました。その日から娘はショックで悪夢を見るようになりました。溶岩流にのまれる、包丁を持った人が追いかけてくる。学校でカウンセリングがあり、「非日常のことが起こったからいつもと違う夢を見るのは当たり前なのよ」と言われ、気持ちが落ち着いていたようでした。その後、東日本大震災で被災した小学生を見て、娘が「あの子どもカウンセリングの先生が来てくれるかな」と心配そうに言いました。それからは悪夢を見なくなったようです。体の傷は分かりませんが、心の傷は分かりません。細かな心配りが大切だと感じました。

### INTERVIEW



霧島市椎茸振興会会長  
牧園町三休堂  
郡山忠彦さん(65)

### 日ごろからの対策を痛感

毎年、椎茸振興会では旧暦1月16日、豊作を祈り霧島神宮にお参りをしています。その日は2月18日でした。お参りの後、単人で食事会をしていると、「牧園では灰が舞いあがって前が見えないくらいだ」と会員の家族から電話がありました。それまで和やかだった場は一瞬にして凍りつきました。降

灰対策のために事前にビニールカバーを買っていたのですが、覆っていませんでした。うっすらとキノコに積もった青味がかかった灰は、パウダー状で硫黄の臭いがしました。水で洗い流すのに10日ほどかかり、それでも流せなかったキノコは青く変色し商品になりませんでした。20万から30万円分のキノコを泣く泣く捨てなければなりません。私たちの仕事は自然が相手、日ごろからできる対策をきちんと整えておくことが大切だと思いました。